

今は一月二十二日、午前十時五十分。外は大吹雪です。急に冷え込んでいます。道路も凍結しています。インフルエンザも少し増えてきました。ところでインフルエンザも含めた風邪の予防には、栄養、休養、うがい、手洗いです。人混みを避けるのも有効です。

さて福岡新水巻病院が開院して、まもなく八ヶ月です。内外よりいろいろとお褒めの言葉、ご批判等いただいております。その中で、当院の特徴、役割が少しずつはつきりして来ました。

①最新の医療機器、②大病院の機能と中小病院の暖かさ、③教育に熱心、④医師及び職員が良い、⑤高いアメニティ、⑥病診連携と病病連携、⑦高いレベルでの救急医療、⑧地域の住民に対する医療啓蒙活動、⑨大規模災害等に備えるトリアージの充実、⑩職員どおしが仲が良いこと、等。

①について。特に3DCT, MRIは世界一の最新鋭です。②については今後も当院の一番の売りとして伸ばしていくつもりです。③もこれ無くして病院は機能を果たしません。④は院長として一番嬉しいことです。前にも書きましたが、*affability* (愛想がいいこと)、*ability* (医療レベルが高いこと)、*availability* (常に求めに応ずること)こそ福岡新水巻病院が目指す最重要点と考えています。⑤については開院前にはここまでして良いのかと思うほど、これまでの病院の既成観念を打ち破るものと自負しています。⑥も順調に立ち上がってきています。⑦これもこの地域においてはこれまで無かったことで救急隊の皆さんにはもとより、地元の方々には新たな安心を生んでいるものと思います。⑧も院内、院外において講演会を主体に少しずつ定着しています。⑨これも当院の使命と考え、日頃からのトレーニングが必要と考えます。⑩、では当院の職員は仲が良いのか？新しい病院を良くしようというのがあって、皆が発展的に自発的に良い職場関係を構築しているものと思います。しかし開院後時間が経つと、意図的に仲良くしようといつも心がけていないとつまらないことからけんかがはじまります。いったんけんかが起ると修復するのに大変な労力と時間が掛かります。となれば常に意図的に仲良くしようとしていれればいいということです。職員のみなさん、宜しく願います。

というふうに福岡新水巻病院が開院して、皆が一致団結して良い病院にしようと燃えています。「初心忘るるべからず」、先人はいいことばを残しています。

第12章。

